

CITY & LIFE

都市のしくみと暮らし

AUTUMN

1990

17

特集

私鉄と歩んだ都市



江戸においても明治においても、
郊外は常に都市の外部としてとらえられていた。
その認識を変えたのは、
大正末期から始まる民営鉄道の敷設と郊外住宅地の開発である。
それまでは単なる田舎でしかなかった郊外が、
私鉄の総合的な開発によって、都市の内側、
つまり生活圏内に組み込まれていったのだ。
そこからは、近代から現代に移行する都市に対して、
私鉄がいかに多大な影響を及ぼしたのかが、うかがい知れる。
そこで、我が国における私鉄と都市の発展の経緯を振り返りながら、
その両者の関係について考えてみたい。

CONTENTS

〈ルポルタージュ〉私鉄と歩んだ都市

阪急電鉄……小林一三が開拓した、私鉄経営と都市開発の総合化	2
東急電鉄……時代を予見した郊外住宅地開発のパイオニア	12
西武鉄道……既存路線に新しい街づくりをめざす	21
私鉄沿線を歩く	30
〈座談会〉世界から見た日本の私鉄	36
／原田勝正／日笠端／八十島義之助	
新交通システム	40
／森地茂	
〈連載〉戦後日本の住宅づくり③	46
／本城和彦	
Information・バックナンバーの紹介	48